

補足要請事項

- 1 老朽原発の運転延長と原発の再稼働を中止すること。
- 2 原発のリプレースを含む新增設を中止すること。

①日本のエネルギーの中長期的な指針を策定する「エネルギー基本計画」の改定作業の中心の委員は50代～70代といった顔ぶれで、将来世代を担う若者などの幅広い意見をくみ上げる構成になっていません。さらに原発推進に否定的な世論が多数あるなかで、原子力推進派と言われる人たち中心の構成では、議論が深まるとは思えません。委員の追加を求めます。

②能登半島地震では、地震・津波等により地層の隆起、道路の寸断、家屋の倒壊など大きな被害を被りました。自然災害と原発事故（能登半島では志賀原発）が重なる複合災害では、避難も救護もままならないことが明らかです。原子力災害における避難計画の実効性が問われています。

避難計画の実効性が伴わない原発の再稼働は中止してください。

③1984年の核燃料サイクル施設誘致決定から40年目を迎える青森県六ヶ所村の核燃料サイクル施設ですが、サイクル施設群の完成・稼働はいつになりますか。また総事業費はどれくらいと見積もられていますか。民間企業主体の事業で、経済的に成り立つ見通しがありますか。原発の廃炉が進められている中で、再処理事業を進めて行く理由はどのようなものでしょうか。

④これまでの「全量再処理」路線を見直してください。

- 3 福島第一原発の汚染水の海洋放出を中止すること。

①「ALPS処理水」の放出は、2051年までに完了することは間違いありませんか。それ以降の放出はないと考えてよろしいですか。

②現在、1000基以上ある汚染水タンクの水（汚染水）を昨年度及び今年度でALPS等で処理し、実際に何基減ったことになりますか。その際、新たに流入した汚染水は何基分となりますか。

③ALPS処理等で発生した汚泥スラッジやフィルター処理・処分は、今後どのようにする予定ですか。スカジュールを示してください。

- 4 気候危機に原発ではなく、再生可能エネルギーの活用を促進すること。

①環境への影響を考えれば、原発を動かし続けることによって処理・処分の困難な放射性廃棄物が大量に発生し続けます。環境への負荷や世代間の公平性に大きく欠ける原子力のこれ以上の利用はやめてください。

②後世代が原子力の後始末に大きな負担を強いられる問題について、世代間の公平性をどのように考えていますか。